

第 11 回国際下垂体病理学会学術総会のご案内

第 11 回国際下垂体病理学会学術総会会長 佐野壽昭

この度、第 11 回国際下垂体病理学会 (IPPS) 学術総会を平成 21 年 10 月 16 日 (金) ~20 日 (火) の日程で、淡路島国際会議場 (夢舞台) にて開催する運びとなりました。

IPPS は、世界各国の下垂体病理学の第一線で活躍している研究者と関連分野の内分泌医、脳外科医、基礎研究者等が 3 年ごとに集い、新知見の交換と将来の方向・発展を探ることを目的として設立され、1980 年、カナダのモントリオールでの第 1 回を皮切りに、メキシコ、ドイツ、フランス、カナダ、イギリス、日本 (箱根)、ギリシャ、ブラジル、イタリアで学術集会を開催してきました。今回は日本として 2 度目の開催となります。

IPPS への参加者は、日本、カナダ、アメリカ、メキシコ、ブラジル、フランス、イタリア、イギリス、スウェーデン、オーストラリア等、毎回、海外から 40~60 名、自国から 20~30 名と 100 名弱がほぼ固有のメンバーとなっており、今回も同様と見込まれます。

学術集会におけるテーマは、下垂体疾患の臨床・基礎研究の新知見、下垂体腫瘍への分子病理学的アプローチの応用、下垂体疾患の動物モデル研究などで、教育講演、シンポジウム、一般口演などの形式でプログラムを立案しています。具体的には、16 日夕方の歓迎レセプションに始まり、17 日と 19 日は終日の学術セッション、18 日は午前中の学術セッションと午後の半日観光ツアー、20 日朝に解散としています。

フル参加される方々は同じホテル (今回は Westin Hotel) に宿泊し、食事や自由時間も利用して親交を深めることを本学会の伝統的なモットーとしています。これほど多数の下垂体研究の世界的第一人者が来日し、日本の研究者とじっくり議論と交流を深めることのできる学会は極めて少なく、大変貴重な機会と思われれます。

なお、10 月 17 日 (土) は、広く国内の下垂体腫瘍に関心のある基礎・臨床の先生方にも 1 日だけ参加して頂けるようなプログラムとし、著名な国内外研究者による教育講演、シンポジウムを集約的に行うことにしています。

IPPS 学術総会にフル参加を希望される方、あるいは 17 日のセッションのみに参加を希望される方には事前登録をお願いしております。関心がおありの方は下記までメールでご連絡下さいますようお願い致します。

sano@basic.med.tokushima-u.ac.jp